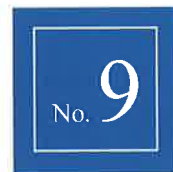


金沢市産学連携事業 運営委員会通信



令和5年3月発行

金沢市では、金沢市産学連携事業運営委員会を設置し、ものづくり産業の振興と発展のため、地元企業と大学等の高等教育機関との連携による新製品開発、新技術開発、人材育成を推進しています。



「産学官連携の現状と未来」 ー石川県立大学の取り組みを通してー

石川県立大学産学官連携学術交流センター長

榎本 俊樹

少子高齢化や途上国の急速な発展、先進国のオープンイノベーションによる迅速な研究開発など、かつてはものづくり立国であった日本の置かれた現状は厳しいと言わざるを得ません。このような現状を受け、産学官連携によるイノベーション創出や人材育成が期待されており、多くの大学で様々な取り組みがなされています。

石川県立大学では、地域貢献活動を推進させることを目的に、平成19年に産学官連携学術交流センターが設置されました。平成24年には、(財)石川県産業創出機構と包括連携協定を締結し、センターの取り組みを強化しました。一方、地域のリーダー育成や地域振興に関する新たな要請に対応するため、平成24年に金沢大学及び野々市市、平成29年に白山市及び金沢学院大学と包括連携協定を締結し、連携による人材養成や地域コミュニティーの再構築活動などにも力を入れています。さらに、本学に隣接するいしかわ大学連携インキュベータや公設試験場とも連携しながら様々なコーディネート・支援活動を進めています。また、平成17年に大連大学(中国)、平成20年にナスアレン大学(タイ)、平成24年に江南大学(中国)、平成25年に屏東科技大学(台湾)、平成26年に大連工業大学、令和2年に国立イフガオ大学(フィリピン)、令和5年にカセサート大学(タイ)とランシット大学(タイ)と友好交流協定を締結し、イノベーションのグローバル化への対応にも努めています。

石川県立大学の産学官連携の取り組みは、センター設置当時から比べると多岐にわたり、その重要性が高まっていると言えます。本学の産学官連携は、県立大学という立ち位置を踏まえ、地方自治体やその関係機関、地域企業などと連携し、国際的視野に基づいたさらなる新しいビジネスの創出や人材養成、新製品開発などのイノベーション創出が求められています。今後は、SDGs やサステナビリティにも注力し、石川県の発展に貢献できればと考えています。

石川県立大学 産学官連携学術交流センター

Tel 076-227-7566 Fax 076-227-7557

<https://www.ishikawa-pu.ac.jp/research/cooperation/>



令和4年度の取り組み

先端ものづくり技術交流セミナー 今年度はオンライン配信により、さまざまな分野における最新技術の動向を紹介しました。

第1回

再生可能エネルギーの地産地消を目指して ～脱炭素を目指した産学連携の取り組み～

脱炭素を実現するためのポイントの一つである直流技術の利活用も含めて、再生可能エネルギーによる地産地消や、その実現に必要な技術などについて解説いただくとともに、産学連携による金沢工業大学扇が丘キャンパスにおける直流を活用した共同事業など様々な取り組みを紹介いただきました。

日時 令和4年11月4日(金) 14:00～16:30
講師 金沢工業大学 工学部 電気電子工学科 教授 泉井 良夫 氏
NTT アノードエナジー株式会社 スマートエネルギー本部
スマートリソース部 担当課長 小長野 孝之 氏
参加者数 39名

参加者アンケートより

- ・人類存続のため、持続可能な社会の実現に向けて、官民挙げての取り組みが必要な世の中になったことを学んだ。
- ・直流が見直されている詳細な理由がわかった。
- ・様々な脱炭素の取り組みが参考になった。

第2回

廃棄物を都市ガスと電気に変換する 『再生可能メタン発酵システム』と 地元企業とのコラボレーション

牛の微生物を活用し、雑草、農業廃棄物、生ごみなどを、メタン(≒都市ガス)と電気に変換する「新規メタン発酵システム」について詳しくお話いただくとともに、メタン発酵液を有効活用した「防災ビール」とそれを手がけた地元企業の環境に配慮した商品開発について紹介いただきました。

日時 令和4年11月28日(月) 14:00～16:30
講師 石川県立大学 生物資源工学研究所 講師 馬場 保徳 氏
株式会社金澤ブルワリー 代表取締役 鈴木 由佳 氏
参加者数 36名

参加者アンケートより

- ・牛の胃にある数多くの微生物の中で、メタン発酵菌を利用した興味深い研究内容だった。
- ・メタン発酵による発電が小さな設備でも実現可能と分かった。
- ・苦難をチャンスと思われること、仕事に対する強い意気込みが伝わった。
- ・将来経営者を目指す者としてとても刺激になった。

第3回

自動運転技術の最前線と、電動化への取り組み ～モータ製造会社の挑戦～

金沢大学における市街地向け自動運転の実証実験や技術研究の最新状況を紹介いただくとともに、大手モータ製造メーカーから独立した企業の成り立ちから、自動車業界の電動化の流れ、モータの技術動向などをお話いただきました。

日時 令和5年3月14日(火) 14:00～16:30
講師 金沢大学 新学術創成研究機構
未来社会創造研究コア 自動運転ユニット 准教授 米陀 佳祐 氏
株式会社TOP 代表取締役会長(兼)社長 山本 恵一 氏
株式会社TOP 執行役員 技術部長 佐々木 健治 氏
参加者数 38名

参加者アンケートより

- ・金沢港～金沢大学まで実証実験がなされ、成功している事に驚いた。金沢大学でココまで研究されているとは知らなかった。
- ・長年培った技術を更に生かしていく「思い」と、次世代モータの開発の可能性を模索し、実現に向けて挑戦されている事に感銘を受けた。

金沢美大デザイン講座

ものづくりへのデザイン活用を推進するための入門セミナーと実践的なワークショップのデザイン開発体験塾を開催しました。

デザイン入門セミナー

■サステナブル経営に欠かせないデザイン思考

金沢美術工芸大学教員より環境に配慮した持続性のある製品開発について分かりやすく解説いただくとともに、実際にサステナビリティ(持続可能性)の考え方を経営に取り入れている企業の方に、取り組み内容についてご紹介いただきました。

日時 令和4年10月7日(金) 14:00～16:00
講師 soil 株式会社 代表取締役社長 石動 博一 氏
金沢美術工芸大学 製品デザイン専攻 教授 安島 諭 氏
エイジデザイン株式会社 代表取締役 稲垣 揚平 氏
参加者数 33名

参加者アンケートより

- ・サーキュラーエコノミーについて、近場で実践されている企業の話が具体的に分かって良かった。
- ・インナーブランディングについて知ることができて良かった。
- ・デザインという特別な技能を習得しないといけないもので、自分に関わることはない分野だと思っていたが、そうではないことがわかった。

デザイン開発体験塾

■デザインワークショップで体験!

企業間コラボレーションによるこれからのものづくり
参加者同士が課題やその解決策について考え、製品企画を立案し発表しました。



日時 令和4年10月18日～11月15日の毎週火曜日(全5日) 各回とも13:30～15:30
講師 金沢美術工芸大学教員等
参加者数 6名

参加者アンケートより

- ・ビジョンマップや商品開発など、自社に今最も求められるアイデアが沢山出てきた。
- ・講座のように進めると、話し合う中で新しいアイデアがたくさん出てきた。どのようなものを作る場合でも新規アイデアが出しやすい環境を整えることは今後役に立ちそうだった。
- ・講師の方々が優秀で、短期間で情報が詰め込まれていた。学生さんとの関わりも、普段できないので得難い経験となった。

マーケティングセミナー

製品開発や販売を行うためのマーケティングについてのセミナーを開催しました。

■組織再成長のためのマーケティング ～環境変化の対応～

マーケティングの全体像についてお話いただくとともに、環境変化対応について実務家の講師からお話を伺い、ディスカッションを行いました。

日時 令和5年1月19日(木) 14:00～17:00
講師 金沢星稜大学 経済学部 経営戦略研究科 教授 岸本 秀一 氏
株式会社キビズ 代表取締役社長 大江 康一郎 氏
参加者数 31名

参加者アンケートより

- ・マーケティングにおける基本的な考え方の振り返りと今後商品を作るうえで、考えなくてはならない課題が整理できた。
- ・常識や慣例にとらわれずに、新たな戦略を切り開いていく方法があることを学んだ。
- ・強い思いと、課題に対して諦めずに取り組む姿勢が成功のカギになると実感できた。

デジタル化推進セミナー

市内ものづくり企業デジタル化を後押しするためのセミナーを開催しました。

■AIに触れてみよう! ～使って実感!AI導入のメリット～

ワークショップ形式により、4つのグループに分かれ、社内の問題点を洗い出し、また、実際にAIの体験演習を通じて、具体的に活用できる場面を検討しました。



日時 令和5年2月28日(火) 14:00～16:30
講師 北陸大学 経済経営学部 講師 藤本 雄紀 氏
北陸大学 経済経営学部 助教 日下 恭輔 氏
参加者数 23名

参加者アンケートより

- ・DX化を進めることやAIを使うことはハードルが高く難しそうなイメージがあったが、そういった思い込みをなくして取り組んでいくことが大切だと分かった。
- ・変革にはトップダウンとボトムアップの両輪が重要だというお話は、まさにその通りだと思いました。

金沢市における産学連携によるものづくり支援

■金沢市新産業成長ビジョンの実践（令和5年度～令和9年度）

社会経済情勢の変化や日々、技術革新が進む最先端技術、地域経済における社会課題を踏まえ、世界に誇る文化をはじめとした金沢の個性を生かし、高い付加価値を生み出す新産業の成長・発展に向けて、本物の価値を高め、創造・変革していくまちをめざし、産学官金の連携のもと、新産業成長ビジョンの様々な施策推進に取り組みます。

- 市内中小企業のDX化に関して、身近に相談できる窓口を開設
- 最先端技術の市民生活への活用を図るため、産学官が連携し、社会実装を支援
- 中小企業創業者支援資金に若者・女性起業家重点支援分を創設
- 金沢未来のまち創造館における事業活動を推進
 - スタートアップ・新ビジネスの創出
 - 子供の独創力の育成
 - 食の価値の創造
 - 海外で活動するスタートアップ、子供たち、料理人との交流
- 入居者や地域住民との世代間を超えた交流
- 若者や女性の起業を重点的に支援
- 児童・生徒を対象とした高度な情報活用能力を育成する活動を推進（金沢IT部活）



金沢 KANAZAWA
未来のまち創造館 MIRAI NO MACHI CREATION CENTER



金沢IT部活



担当：金沢市 経済局 産業政策課 TEL：076-220-2204 FAX：076-260-7191
E-mail：sansei@city.kanazawa.lg.jp

■新製品開発・改良促進事業

企業が新製品・新技術・新システム等の開発を行う経費の一部を助成します。

新製品等の開発事業については、産学連携コース、単独企業コース、企業連携コースの3種類の補助メニューがあります。また、既存製品を改良する場合の補助もあります。

募集期間は令和5年4月10日（月）から6月9日（金）17:00 までです。

■ものづくり実践塾

自社製品を持つことで経営基盤の強化をめざす中小企業者に、支援チーム（本市ものづくりコーディネーター、製品開発監修者、弁理士、マーケティング専門家で構成）が伴走しながら、自社の事業分野を活かした製品の開発から販路開拓までを支援します。

詳細は、令和5年4月以降にホームページ等でお知らせします。

担当：金沢市 経済局 商工業振興課 TEL：076-220-2205 FAX：076-260-7191
E-mail：syoukou@city.kanazawa.lg.jp

■金沢市産学連携事業運営委員会

事務局

○金沢市経済局商工業振興課

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
TEL 076-220-2205 FAX 076-260-7191
E-mail:syoukou@city.kanazawa.lg.jp

○金沢市異業種研修会館

〒920-0377 金沢市打木町東1400番地
TEL 076-240-1934 FAX 076-240-1903
ホームページ <http://www.kanazawa-sangaku.jp/>

